

八王子: 延喜16年(916年)に華嚴菩薩妙行という名僧が、現在の元八王子町城山に庵を建て修行、牛頭天王が顕れ八人の王子を祀るよう妙行に託した。そして深沢山上に牛頭八王子権現を創建。「八王子」という名の起りになったという。後に深沢山には八王子城が築かれた。

【都立小宮公園】 (開園 昭和61年、面積 約25ha)

浅川北岸の加住南丘陵にあり、標高が約160mの丘陵地の公園。美しい雑木林に覆われ、小鳥の名の付いた園路が通っている。最高所はひよどり山と呼ばれ、雑木林とは対比的な草地広場。

弁天池: 天明年間の大かんばんの時、その悲惨な状態を見た八王子千人同心頭荻原氏が、大谷の谷間を利用して掘った池だと、今でも、雑木林の奥にある崖中腹からの湧水が、林の間に小川を作り、弁天池に流れている。

【少林寺】 (曹洞宗金龍山)

本尊は釈迦如来。弘治元年(1555)北条氏照を開基に暁嫩桂巖を開山として創建。桂巖和尚は氏照の乳母の子と言われる。氏照が使用した鞍と鎧を寺宝として所蔵。創建当初は本堂、禅堂、開山堂など多くの伽藍を有していたが、度重なる火災によって焼失。現在の本堂は平成5年新築。

【都立滝山公園】 (開園 昭和61、面積 約26ha)

多摩川と秋川の合流点の南側に広がる加住丘陵にあり、都立滝山自然公園(661ha)の一部。

自然公園とは、優れた美しい自然の風景地を保護し、自然に親しみ、楽しむことができるように指定された公園。地域を指定する地域性の公園で国、所有地だけでなく民有地も含む。

滝山城跡 (国史跡): 永正18(1521)年に武蔵国守護代の大石定重が築いた山城。戦国時代にその名を馳せた城館の一つで、東京都に現存する城館としては、江戸城、八王子城と並び、規模の大きさ、縄張の巧妙さ、遺構の保存状態などを総合して全国区の知名度を誇る。比高30~50mの丘陵の複雑な自然地形を巧みに利用した城域は、東西南北約750m四方という巨大なもの。天正初年(1573)北条氏照が、八王子城を築きそこに移るまで、大石・北条の居城であった。